

新任教員紹介



立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科

片山 郁夫 特任教授

Ikuo katayama

PROFILE

博士(サステイナビリティ学)。立教大学大学院ビジネスデザイン研究科博士課程前期課程修了、法政大学大学院公共政策研究科博士後期課程修了。研究領域は、企業経営史、経営戦略、サステイナビリティ経営。企業でのマネジメント経験とアカデミックな知見の融合を意識。現在、SOMPO ビジネスサービス常勤監査役、法政大学イノベーション・マネジメント研究センター客員研究員。所属学会は実践経営学会、日本保険学会、ビジネスクリエーター研究学会。「わが国損害保険産業の発展史：大衆保険にみる競争・協調のダイナミズムとサステイナビリティ」(デザインエッグ社、2022年、単著)、「戦後の自動車保険にみるアウトサイド・インの価値創造戦略」(『サステイナブルマネジメント』第18号、2018年)。

片山先生の自己紹介と大事にしている価値観を教えてください

大学を卒業後、損害保険会社に入社し、北海道から沖縄まで全国各地で企業営業・代理店営業に、当社では総務、広報・CSR、秘書などの業務を通して企業価値向上に取り組みました。本年4月から、RBSの特任教授として赴任し、多様なバックグラウンドを持つ社会人院生との学びの場にとってもやりがいを感じています。

価値観は好奇心を起点としたワクワク・ドキドキ感を大事にすること、そして、用意周到と楽観主義です。

実務家として活躍されてきたキャリアから教鞭をとられることになったきっかけについて

私自身も社会人大学院生として、修士課程(RBS)、博士課程を修了し、学位を取得しました。働きながらの学びは時間的にも経済的にも容易でなく、周囲の理解と協力が必要です。そのような社会人大学院生の学びを支援することの使命感から他大学で時折教壇に立つこともありましたが、今回私の大学院での学びのスタートであるRBSで皆さんを指導する機会をいただいたのは不思議なご縁だと感じています。

RBSの学生へメッセージをお願いします

まず、皆さんはそれぞれ覚悟を持ってこの場に飛び込んだのでしょうか。そうであれば、2年間、ポジティブ

に貪欲に過ごしてください。例えば、修士論文指導(ゼミ)の正・副指導教員にとられず、他の教員や院生に相談することもできます。院生の立場なら、学外の方へのアクセスも可能です。図書館をフルに活用することも大切です。

また、皆さんの貴重な学びの時間をより有益にするには、自分自身で考え、こうではないかと仮説的な思考をめぐらせていきましょう。自分自身で考えるからこそ、熱い思いを抱いて取り組むことができ、授業、リサーチ、デザインも充実したものになります。一方で、自身の思考に縛られ過ぎてはいけません。ここで皆さんにオスターワイルダー博士の言葉、「最初のアイデアに夢中にならない(Don't fall in love with your first idea.)」を贈ります。本来ビジネスモデル、イノベーションに関する言葉ですが、近視眼に陥らないという点で様々な学びに通じるものです。主体的、自律的に思考し、気持ちも入れつつ、他の人の考えやアドバイスにも耳を傾ける、ここが大事です。

片山先生の授業の履修について

授業は、受け身ではなく、主体的・積極的な受講を期待します。質問、発言を歓迎します。ただし、同じ受講者の意見を尊重し、傾聴する姿勢も大切になってください。それが受講者全員の成長につながります。

企業でのマネジメント経験とアカデミックな知見を融合し、皆さんのビジネスの思考の軸をつくるサポートを意識していきます。

プロフィールやメッセージから先生をより知るための
きっかけにしてみてください。



立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科

足立 充 特任教授

Mitsuru Adachi

PROFILE

慶應義塾大学経済学部卒。1982年三井不動産入社。オフィスビル事業の開発事業企画・法人営業・運営管理全般を一貫して従事する一方、リゾート事業開発企画、リゾート運営会社経営企画も担当。2010年三井不動産ビルマネジメント常務取締役、2014年三井不動産ホテルマネジメント代表取締役社長、2020年取締役会長。2023年度より本学勤務。レジャー産業研究会グループ8副代表幹事。専門分野はファシリティマネジメント、ホテルマネジメント。

足立先生の自己紹介と大事にしている 価値観を教えてください

大学卒業後、総合不動産デベロッパーに41年間勤めました。会社の業務フィールドが広がったことからメインはオフィスビル事業に係る開発企画・営業から運営まで一貫して従事し、全国200棟の三井ビルの運営統括をしていた折は東日本大震災が発生するといった経験もありました。その他、リゾート開発部門、リゾート運営会社の経営企画部門を経験することに加え、直近9年間はホテル運営会社のトップマネジメントに携わりました。当初の6年は政府の観光立国政策やインバウンドの伸長の追い風を受け、会社が現在国内に展開する3ブランド（三井ガーデンホテルズ、セレスティンホテルズ、sequence）40ホテルのうち、2ブランドの新設、25ホテルの新規開業を経験しました。新規開業にはホテルマネジメント全般の知見が必要ですが、ホテル事業以外で培ってきた発想力や組織・人事マネジメント等の経験にも助けられたと思います。

その後の3年間、コロナ禍におけるホテル運営にあたり、ホテル事業を再構築し今後の展開を考える良い機会となったことはかえって収穫でした。自分の専門領域としてホテルマネジメントに軸足を置くきっかけともなりました。

実務者として走り続けてまいりましたが、常に心掛けていたのは、「答えは現場にある」ということ。私たちの周りにはふんだんに情報はありますが、多くの情報の中から文脈と理論を見極め、最後は現場で確認をする。そのような姿勢を大切にまいりました。

また、ホテル事業に携わって「不易流行」という言葉にも出会いました。本質的なものを忘れない中で新しく変化を重ねているものを取り入れることが新たな価値を生み出していくと認識しています。常に新規のものに関心を持ち、まずは対峙する姿勢を大事にしたいと思っています。

実務家から教鞭をとることになった きっかけを教えてください

実務中心の暮らしをしておりましたが、前掲のとおり自分のキャリアの中で運命的ともいえるホテル（宿泊）・観光分野の出逢いと、この業界の奥深さに触れるにつけ、いろいろな方と学びを続けること、次世代を担う方の支援を通じて業界に貢献したいという思いを抱いていたところ、ご縁があって本校の仲間に加わることとなりました。

元々の仕事のスタイルもチームビルディングを心掛けていましたが、マネジメントの立場になるにつけチームの成長が最大のモチベーションでした。宿泊・観光のホスピタリティの世界はまさに人財が基盤です。その様な背景も後押しとなりました。

RBSの学生へメッセージをお願いします

時間の制約のある中で学ばれていることは大変なことだと思いますが、強い意志の下RBSに集っていらっしゃると思います。自分の価値観・世界観を高め、次の展開に繋がる有意義な時間を送っていただきたいと思います。また、志を共にする方々とネットワークが作れることもRBSの目的と伺っています。そんな皆さんとご一緒することを楽しみにしています。

足立先生の授業の履修について

講義科目は、春学期の観光地域経済論、秋学期のホテルアセットマネジメントになります。いずれも概論は触れますが、応用／専門モジュールとの位置づけからホテルビジネスを基本に事例研究を交えながら皆さんとの議論の中で進めてまいります。専門家・実務者のゲストスピーカーの招聘も予定しています。